

気候変動とカナダの林産業

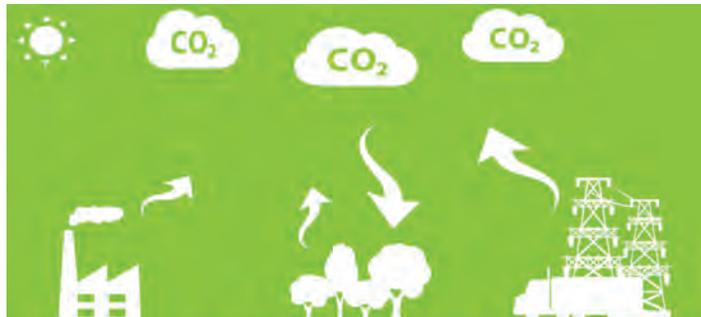


カナダの林産業は気候変動の緩和に向けて奮闘しています。私たちの森はグローバルな炭素循環において重要な役割を果たしており、膨大な量の二酸化炭素(CO₂)を大気中から取り込み、樹木や地中に貯留しています。

そうした森林も、またその持続可能な管理も、気候変動の影響を大きく受けています。林野火災やマウンテンピンビートルなどの虫害の増加に、気候変動が関与しています。

カナダの持続可能な森林管理は気候変動の緩和に寄与するとともに、それに適応したものでなくてはなりません。国際連合の気候変動に関する政府間パネルは、年間の原木生産量を保ちながら炭素貯留量を維持もしくは向上させることを目指した持続可能な森林管理戦略は、長期的にかなりの緩和効果を挙げることを認めています。製材工場のエネルギー効率化を図り、持続可能な森林管理を実施し、伐採された木からの林産品に炭素を貯留することによって、カナダの森が世界的な大問題の解決に貢献することができるのです。

カナダ林産業界は世界の森林の10%を預かる者として、この重要な生態系を維持していく重責を真摯に受け止めています。健康な森林であればより多くの温室効果ガスを、大気ではなく地中に貯めることができますから、気候変動問題に焦点を当てた森林管理に努めています。



気候変動緩和におけるリーダーシップ

伐採された原木の一本一本を確実に再生して炭素の貯留を継続していくことから、製材工程における環境フットプリントの低減に至るまで、FPAC会員は気候変動の緩和において、確かな実績を積み重ねてきました。今や会員による営林地は厳格な第三者認証を例外なく取得しており、健全な林地の維持を約束しています。カナダは世界の認証林の43%に当たる1億6300万haに及び第三者認証林を保有していますが、その大半がFPAC会員の努力によるものです。

カナダにおける林産施設は環境フットプリントの低減を新たな焦点および努力目標としており、確実にクリーンになりつつあります。設備の近代化や省エネの達成だけでなく、グリーンなオンサイト発電も行っており、これがカルガリー市全体の電力量を賄えるまでになっています。さらに2000年からはカナダ林産業界全体として石炭の使用を中止し、石油の使用も90%以上削減しています。紙パルプ工場について言えば、温室効果ガス排出量は1990年以来、70%近くを削減しています。

FPAC会員はこうした大きな実績にとどまらず、気候変動緩和に向けて更なる努力をしていく決意を新たにしています。FPACは世界で初めて、業界全体として2015年までにカーボンニュートラルになることを公約し、2012年にはVision2020を打ち立てて、環境フットプリントをさらに35%削減するための活動を開始しました。Vision2020は環境、労働力、経済面のいずれにおいても、非常に高い目標を掲げています。

気候変動に対する林産品の利点

持続可能な林産品は林地を保全するだけでなく、長期に渡って存続する木造枠組材や書物といった林産品の形により、炭素を貯留します。こうした林産品の多くは鉄骨やコンクリートといった他の炭素集約型資材を代替することができます。詳細に渡るライフサイクル評価の数々が、住宅や低層建築において鉄骨やコンクリートに代えて木材を用いることによる利点を示しています。

バイオエネルギー用の木質ペレットなど短命な製品であっても、化石燃料といった他のエネルギー源を削減することにより、気候変動緩和の一助になります。木を燃焼させると炭素が排出されますが、次世代の木々が育つときに貯留しますから、往復旅行のようなものです。対照的に、エネルギー源として燃焼される化石燃料からの炭素は大気への片道旅行です。新たなバイオ製品の開発で世界をリードするFPACのbio-pathwaysプロジェクトは、多数に上る日用品のサプライチェーンをグリーンにしていくために、林産品ができることはまだまだ数多くあることを提案しています。

**国際連合の気候変動に関する
政府間パネルは、年間の原木生産量を
保ちながら炭素貯留量を維持/
向上させる持続可能な森林管理戦略は
長期的に相当な気候変動緩和効果を
挙げると認めている**

気候変動への適応 - 準備は万端

林産品には常に、次世代の森林資源へのニーズを考慮した、慎重で持続可能な計画が求められています。カナダの森林士にとっても例外ではなく、長い歴史を持つ世界最先端の研究に立脚し、基準や指標の制度に基づいて現状をモニターし管理を調整するという科学的な森林管理手法を、施業に反映させています。すなわち今日の森林管理者は、長期的な気候変動問題への対応を、日々の森林管理計画に組み込んでいくための準備ができているということです。

この計画は、当然のことながら複雑です。森林が気候変動にどう適応していくかについては多くの不確定要素があり、たとえば夏がより暑くなった場合は、十分に水がある寒帯林では木の成長を促進できませんが、乾燥していれば悪影響にもなり得ます。こうした面での情報は不足しており、それを克服するカギのひとつは政府が握っています。カナダ林産業界が気候変動適応で世界をリードしていくためには、カナダ森林局の研究機関などと手を携えて協力していくことが不可欠です。

適応における課題

敏捷でイノベティブな林産業界であれば、不測の事態にも適応できます。たとえばカナダでは、BC州で発生したマウンテンパインビートルの大被害に対して伐採計画を調整し、被害を制御して被害木を救済したり、乾燥した原木のための製材工程を編み出すなどの措置を取ることで、中国への輸出急成長というチャンスをつかむことになりました。結果としてカナダの対中林産品輸出は2003年から2011年の間に1300%増という飛躍的成長を遂げたのです。

気候の変動は、絶滅の恐れのある種や森林管理にとっての新たな課題も意味します。種子の放散によって森林も「動く」ことは可能ですが、数々の研究が、最適な生長環境のほうが生かされずに早く動いてしまうことを示しています。絶滅の恐れのある種の回復対策を講じる場合は、こうした気候帯の移動と、生産的かつ機能的な生態系に依存している種間の関係を考慮することが重要です。気候が変動すれば、野生生物の種の範囲は同一には保たれません。樹種の伝播の助成や気候を考慮した柔軟な基準、そして絶滅の恐れのある種に関するデータは、気候変動の中で持続可能な森林管理を調整していくうえで重要な部分を担っています。



FPAC はカナダ林産業界の声を代弁する業界団体であり、Vision2020の掲げる意欲的な目標の達成を支援し、イノベティブな新製品や市場の多様化、環境面での信頼性と実績の向上、そして技能を有する労働力を伴うことで、業界が変貌していけるよう尽力しています。カナダの有力林産企業を代表していることは、FPACの誇りです。

FPAC会員企業は全社が、歴史的なカナダ寒帯林協定に署名し、カナダにおける認証林の66%の営林に当たっています。FPACは会員企業の施業地に第三者による森林認証取得を義務付けた世界初の業界団体です。